

## 令和5年度 病害虫発生予察情報(美濃地域:施設野菜) 12月予報

### 【 トマト・キュウリ 】 タバココナジラミ

タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病、トマト黄化病やキュウリ退緑黄化病などのウイルス病害を媒介します。施設内をよく観察し、発病株を確認した場合は早期に取り除き、本虫の防除を徹底してください。

### 【 イチゴ 】 ハダニ類

同一ほ場内でも発生程度にばらつきがあります。ほ場内をよく観察し、局所的な発生に注意してください。天敵を導入する場合は、導入前に薬剤防除によりハダニ類の密度を下げてから、天敵の放飼を行いましょう。すでに天敵を導入したほ場でハダニ類の発生が多い場合は、天敵に影響の少ない薬剤で防除を実施してください。

### ○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(12月)

作物	病害虫名	12月(予測)	発生状況及び今後の予測	11月(発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	やや少	調査ほ場では、発病は認められない。今後は発病適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>うどんこ病</b> 発生初期の防除を徹底する。</li> <li>・<b>ハダニ類</b> ほ場内をよく観察し局所的な発生に注意する。</li> </ul>
	ハダニ類	やや少	一部の調査ほ場で発生が認められる。今後、気温は平年並、降水量は平年より少ないと予想されるため、乾燥により密度が高まると予測される。	少	
	コナジラミ類	少	調査ほ場では、発生は認められない。今後は増殖適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	
トマト	灰色かび病	やや少	一部の調査ほ場で発病が認められる。今後、日照時間は長く、降水量は少ないと予想されるため、急激な増加はないと予測される。	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>コナジラミ類</b> 厳寒期でもほ場内では低密度で生息しているため防除を徹底する。</li> </ul>
	コナジラミ類	やや多	調査ほ場の施設内発生量は平年より多いことから、今後も発生が続くと予測される。	多	
キュウリ	褐斑病	やや多	調査ほ場では、耐病性品種でも軽度の発病が認められた。罹病性品種を栽培する場合は、発病が予測される。	多	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 11月調査は抑制栽培 12月予測は半促成栽培</li> <li>・<b>褐斑病・べと病</b> 過湿時には循環扇等を利用し、通風を良くする。</li> <li>・<b>アザミウマ類(ミナミキイロ)</b> 黄化えそ病のほ場では、切り換え時に粒剤を施用する。長期越冬作型では発生を認めたら、防除を実施する。</li> </ul>
	うどんこ病	やや少	調査ほ場で発病が認められる。今後、降水量は平年より少ないと予想されるため、既に発病のあるほ場では乾燥による増加が予測される。	少	
	べと病	やや少	調査ほ場では、耐病性品種でも軽度の発病が認められた。罹病性品種を栽培する場合は、発病が予測される。	並	
	アザミウマ類	少	調査ほ場では、発生は認められない。今後、増殖適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃及び東濃地域

注2) 調査品種 イチゴ:濃姫、美濃娘及び紅ほっぺ トマト:りんか及びかれん

キュウリ:まりん(うどんこ病・褐斑病・べと病耐病性品種) ※まりんは、抑制作型

### 野菜類 微小害虫

ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病、トマト黄化病やキュウリ退緑黄化病のウイルスをそれぞれ媒介します。

これら微小害虫は、株と株とを移動し、次々とウイルスを媒介するため、低密度でも大きな被害を与えます。冬春施設栽培においては、ほ場内で越冬するため、厳寒期のほ場内の防除を徹底し、春先の増加を抑えましょう。

キュウリで作型を切りかえる場合(特に黄化えそ病が発生していた場合)は、次作の定植まで20日以上空け、保毒虫が次作に引き継がれないようにしましょう。

また、右記の対策により微小害虫の防除を徹底してください。

### 数値データ (岐阜・西濃地域 11月調査)

イチゴ			
うどんこ病	(発病株率)	0	(0.0)
ハダニ類	(寄生株率)	0.7	(11.9)
コナジラミ類	(寄生株率)	0	(0.5)
トマト			
灰色かび病	(発病果率)	0.03	(0.0)
コナジラミ類	(誘殺頭数)	15.6	(4.7)
キュウリ			
褐斑病	(発病葉率)	10.1	(5.4)
うどんこ病	(発病葉率)	0.6	(6.6)
べと病	(発病葉率)	4.4	(4.6)
アザミウマ類	(寄生頭数/100葉)	0	(12.0)

注1)イチゴ、トマトは3ほ場、キュウリは2ほ場の調査

注2)( )内数値は平年値 株率、葉率及び果率は%

注3)トマトのコナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板での調査データ(11月第1半旬~第4半旬までの累計誘殺数)

### =施設栽培の病害虫について=

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごと病害虫の発生状況が異なります。施設内及び周囲の状況をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

### =東海地方1か月予報=

(名古屋地方気象台 11月23日発表)

向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年より少ない、日照時間は平年より多いと予想されます。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

- ①前作の残渣やほ場内の雑草で生存するため、処分を徹底する。
- ②定植直後の増加を防ぐため、定植時には粒剤を施用する。
- ③開口部を防虫ネットで被覆する。
- ④薬剤散布を行う場合、同一系統薬剤の連用を避ける。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所  
トップページ  
二次元バーコード